

# ニカメイガ情報第1号（水稻）

令和6年7月10日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

**第一世代幼虫による心枯れ被害が目立つほ場があります。  
第二世代幼虫による被害に注意しましょう。**

## 1 発生状況

6月下旬の巡回調査（県内128ほ場調査）において、ニカメイガの被害株率は0.11%（平年0.14%、前年0.37%）で、過去10年間で4番目とほぼ平年並みでしたが、一部で第一世代幼虫による心枯れ被害（図1）が目立つほ場がありました。

また、県内各地に設置した予察灯では、5月頃に越冬世代成虫が各地で誘殺されており、誘殺数も多い状況です。

このため、第一世代成虫の発生が多くなる可能性がありますので、特に近年被害の多い地域では、第二世代幼虫による被害に注意しましょう。

## 2 ニカメイガについて

越冬世代成虫は田植え後のイネに産卵し、ふ化した第一世代幼虫がイネの茎内に侵入し食害します。被害にあった茎は葉鞘褐変を起こし、食害量が多い場合は枯死し、心枯れを生じさせます。

次の第一世代成虫もイネに産卵し、ふ化した第二世代幼虫がイネを食害します。出穂期以降の被害では、白穂を発生させ収量に影響します。

## 3 防除対策

ニカメイガは発蛾最盛期（成虫発生ピーク）の数日後～7日後の薬剤散布（粒剤は発蛾最盛期）が効果的ですが、ニカメイガは断続的に発生が続く傾向があるため、成虫発生のピークを捉えることが難しいです。

このため、予察灯の誘殺数データ（あいち病害虫情報 調査データ）や、過去の発生消長（図2）、ほ場での発生状況（成虫の発生が目立つ頃）などを参考に、成虫の発生が増えてきた時期にパダンSG水溶剤（収穫21日前まで）などで防除しましょう。



図1 幼虫の食害による茎の心枯れ

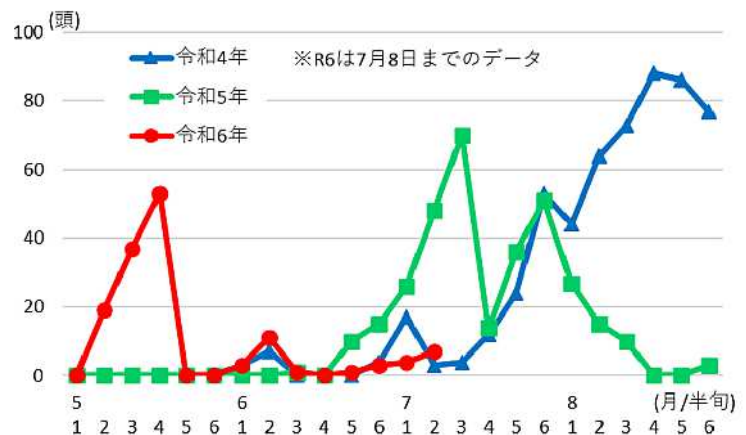


図2 弥富市予察灯の成虫誘殺状況（R4～6）

R4は7月下旬頃から、

R5は7月上中旬頃から発生が増加